

はきものをそろえる

八潮市立松之木小学校

校長 日暮 恭明



二学期がスタートして一週間になります。朝夕の暑さが真夏の暑さとは異なってきたとはいえ、まだまだ暑い日が続いています。そんな中、児童たちは、校庭などで友だちと一緒に汗をかいで遊び、友だちとの学校生活が楽しい様子です。二学期のさまざまな活動や取り組みがより充実したものになって欲しいものと願ってやみません。

さて、20年ぶりの新札となった日本銀行券は、すでにご覧になったことと思います。特に、本県では、一万円札の顔に日本資本主義の父と言われる渋沢栄一が取り上げられ、身近に感じた方も多くのことと思います。日本を本当の豊かな社会にするために「みんなの幸せ」を一番に考えたこの渋沢栄一が大切にしたことのひとつに、「真心（まごころ）と思いやり」があります。特に、「くつをそろえる」は、今日も受け継がれる心構えとして多くの方に語られています。

「くつそろえは、気持ちを整えることにつながります。いつでもどこでも、自分のくつはもちろん周りのくつも、そっとそろえてみましょう。」（深谷の子「6つの誓い」より）

この「くつをそろえる」は、長野県にある円福寺というお寺の和尚さんだった藤本幸邦（ふじもとこうほう）という方が「はきものをそろえる」として作った詩です。

「はきものをそろえる」
はきものをそろえると 心もそろろう
心がそろろうと はきものもそろろう
ぬぐとときにそろえておくと はくときに心がみだれない
だれかがみだしていたら だまってそろえておいてあげよう
そうすれば 世界中の人の心もそろうでしょう

くつを脱ぎっぱなしにしたら、他の人はどんなきもちになるだろうか。自分さえ良ければ。履物をそろえることができる人は、心が穏やかで他の人の気持ちを考えることができる人だ。他の人の気持ちを考えられるようになると、お互いが気持ちよく生活を送ることができるようになる。平和で幸せな世の中になる。という意味が込められています。渋沢栄一は、この考え方をとても大切にしていたといわれています。

登校して最初にすることは、「あいさつ」と下駄箱に「くつをそろえ」て入れることです。毎日のことで、とてもささいなことかもしれませんが、しかし、この小さなこと、ささいなこと、何気ないことが、私たちの生活において重要であり、原点となるものなのです。

二学期も小さなことを積み重ねていきましょう。